

化粧行動を規定する個人差要因の日タイ比較

(2017年10月24日受付；2017年12月21日受理)

平松 隆円[#]

東亜大学

繊維製品消費科学 Vol. 59 No. 6 別刷
一般社団法人 日本繊維製品消費科学会

化粧行動を規定する個人差要因の日タイ比較

(2017年10月24日受付；2017年12月21日受理)

平松 隆円[#]

東亜大学

Individual Difference Variables (Self-Consciousness, Other-Consciousness), Which Define the Makeup Behavior in Japanese and Thai

Ryuen HIRAMATSU[#]

University of East Asia, Shimonoseki, Japan

Abstract

This study was investigated how the individual difference variable influenced on the makeup behavior between Japanese and Thai. This research was conducted using a questionnaire survey involving 501 male and female university students in Japan and Thailand (Thai male: 61, Thai female: 239, Japanese male: 89, Japanese female: 112).

For the Thai male students, it became clear that makeup behavior was specified by “public-self-consciousness” and even if only partially by “imaginal-other-consciousness”. For the Thai female students, it became clear that makeup behavior was specified by “public-self-consciousness”. For the Japanese male students, it became clear that makeup behavior was partially specified by “private-self-consciousness”, “external-other-consciousness” and “imaginal-other-consciousness”. For the Japanese female students, it became clear that makeup behavior was partially specified by “internal-other-consciousness”.

(Received October 24, 2017 ; Accepted December 21, 2017)

Key words: *makeup behavior, self-consciousness, other-consciousness, Japanese, Thai*

(Journal of the Japan Research Association for Textile End-Uses, Vol.59, pp.456-461, 2018)

[#]Corresponding Author: E-mail: ryuenhrmt@toa-u.ac.jp

要 旨

本研究は、化粧行動を自意識や他者意識がどのように規定するのかについて、日本人とタイ人で比較検討をおこなうことが目的である。タイ人男子 61 名、タイ人女子 239 名、日本人男子 89 名、日本人女子 112 名を対象に質問紙調査をおこなったところ、おおむねタイ人男女の化粧行動は公的自意識が規定し、部分的ではあるものの空想的他者意識がタイ人男子の化粧行動を規定していた。また、日本人男子の化粧行動は私的自意識、外的他者意識、空想的他者意識が部分的ではあるが規定し、日本人女子の化粧行動は部分的に内的他者意識が規定していた。

キーワード：化粧行動、自意識、他者意識、日本人、タイ人

1. はじめに

ひとは生きるなかで、所属する集団の成員としてふさわしい生活様式、行動、価値などを身につける。それは化粧も同様であり、それゆえに、ひとは状況に応じて一定の方法で化粧をおこなう。しかしながら、集団における生活様式、行動、価値といったものは、その集団がどのような文化、社会、環境に属しているかによって異なることが推測される。この仮説にもとづき、平松¹⁾は日本人とタイ人の男女を対象に化粧行動に関する比較調査をおこない、化粧行動の構造は日本人とタイ人の男女で共通しているものの、おこなう化粧行動の程度に違いが認められることをあきらかにしている。

どのような化粧行動をおこなうかについては、個人が所属する特定の文化、社会、集団、また特定他者などに関係するだけではなく、個人に固有な特性と深いつながりがある。すなわち、日本人とタイ人で違いが認められた、おこなう化粧行動の程度には、日本とタイの文化や社会の違いはもちろんのこと、自意識などといった個人差要因(性格特性)も関係していると推測される。個人差要因については、これまで主に自意識や他者意識との関連が検討されている。それらの結果を要約すると、Cash & Cash²⁾やMiller & Cox³⁾によれば、公的自意識の高い女子ほど、化粧の利用度や程度が高い。松井⁴⁾によれば、自意識にとまなう外向性と内向性によって化粧行動が相違するかという研究において、外向性の高い女子ほどメイクアップ化粧品利用率が高く、内向性の高い女性ほど基礎化粧品利用率が高い。平松・牛田⁵⁾の大学生を対象とした研究によれば、男女共通して公的自意識の高い者ほど、より化粧関心と化粧行動を示す。また平松⁶⁾によれば、男子の化粧行動には外的他者意識・内的他者意識が、女子の化粧行動には外的他者意識・内的他者意識・空想的他者意識が関係

している。

そこで本研究では、平松¹⁾による日本人とタイ人の化粧行動の実態をふまえ、自意識や他者意識といった個人差要因が、いかに日本人とタイ人の化粧行動を規定するかを、比較検討する。

2. 調査の概要

2-1 調査の方法、調査時期、調査対象者

バンコク都にある国立大学に通学する学生と神戸市にある私立大学に通学する学生を対象に、質問紙調査をおこなった。

倫理的配慮として調査票に研究の目的、また回答は任意であり、無記名で個人が特定されないことを明記した。タイ語の質問紙は、ネイティブ・レベルにタイ語を使用できる日本人大学院生が日本語の質問項目をタイ語に翻訳し、作成した。使用前に、複数のタイ人によって質問項目の等価性を確認した。

調査対象者はタイ人男子 61 名(平均年齢=20.08 歳, $SD=1.61$)、タイ人女子 239 名(平均年齢=20.15 歳, $SD=1.13$)、日本人男子 89 名(平均年齢=19.84 歳, $SD=1.65$)、日本人女子 112 名(平均年齢=19.41 歳, $SD=1.23$)であった。なお、第 3 の性に属する学生が 19 名いたが、分析からは除外した。

2-2 調査内容

1) 化粧行動

日本とタイの若者たちの化粧行動の実態を調べるため、平松¹⁾の化粧行動 20 項目を用いて、それぞれの化粧行動をどのくらいの頻度でおこなうかについて、「まったくしない(1)」から「いつもしている(5)」までの 5 件法で回答を求めた。

なお、化粧がどのような行動を指すかについては、平松⁷⁾が詳細にまとめている。だが、本研究では化粧の定義を、厚生労働省⁸⁾が定めた医薬品医

療機器等法における「人の身体を清潔にし、美化し、魅力を増し、容貌を変え、又は皮膚若しくは毛髪を健やかに保つために、身体に塗擦、散布その他これらに類似する方法で使用されることが目的とされているもので、人体に対する作用が緩和なもの」にしたがった。そして、ファンデーション、アイシャドウ、ヘアスタイリング、化粧品、乳液、香水、デオドラントなどを化粧として扱い、その具体的な行動の内容を質問紙に明記した。

タイ人と日本人の化粧行動の構造をあきらかにするため、評定平均値をもとに主成分分析をそれぞれおこなった。なお、因子の選定は、Kaiser-Guttmanによる最低固有値 1.0 を基準とした。その結果、タイ人と日本人の因子構造はほぼ同じ結果であったので、タイ人と日本人をあわせて主成分分析 (Equamax 回転) をおこなったところ 4 因子があきらかとなった。すなわち、第 1 因子は「唇の保湿」「顔の保湿」などの項目が高く寄与した『スキンケア』($\alpha=0.83$)、第 2 因子は「染髪」「アイメイク」などの項目が高く寄与した『メイクアップ』($\alpha=0.83$)、第 3 因子は「オイルコントロール」「鼻のパック」などの項目が高く寄与した『クレンジング』($\alpha=0.81$)、第 4 因子は「デオドラント」「香水」などの項目が高く寄与した『フレグランス』($\alpha=0.66$) であり、簡便因子得点を算出し、分析データとした。

2) 自意識

自意識とは、自分自身への注意の向けやすさに関する性格特性である。自分の外見や他者に対する行動など外からみえる自己の側面に対し注意を向ける意識の公的自意識、自分の内面や気分など外からみえない自分の側面に注意を向ける意識の私的自意識からなる。

本研究では、菅原⁹⁾の自意識尺度 21 項目を用いて「あてはまらない (1)」から「あてはまる (5)」までの 5 件法で得点化した。確認のため主成分分析 (Varimax 回転) をおこない、既存尺度と同じ 2 因子を得た。内的整合性および因子構造の点から不適切な「自分自身の内面のことにはあまり関心がない」「他人をみるように自分をながめてみることもある」「ふと一歩離れた所から自分をながめてみることもある」「自分を反省してることが多い」「世間体など気にならない」「初対面のひとに自分の印象を悪くしないように気づかう」「自分の発言を他人がどう受け取ったか気になる」「ひとに会う時、どんなふうにするまえばいいのか気になる」「自分が他人にどうおもわれているのか気にな

る」をのぞいて簡便因子得点を算出し、分析データとした (公的自意識: $\alpha=0.75$, 私的自意識: $\alpha=0.77$)。

3) 他者意識

他者意識とは他者への注意、関心、意識が向けられた状態をいい、他者への注意の向けやすさに関する性格特性である。他者の気持ちや感情などの内面情報を敏感にキャッチし理解しようとする意識や関心である内的他者意識、他者の化粧や服装などの外見にあらわれた特徴への注意や関心の意識である外的他者意識、他者について考え空想をめぐらせ、その空想的イメージに注意を焦点づけ、それを追いかける意識である空想的他者意識からなる。

本研究では、辻¹⁰⁾の他者意識尺度 15 項目を用いて「あてはまらない (1)」から「あてはまる (5)」までの 5 件法で得点化した。確認のため主成分分析 (Varimax 回転) をおこない、既存尺度と同じ 3 因子を得た。内的整合性および因子構造の点から不適切な「表面的な他者の印象に心を奪われやすい」をのぞいて簡便因子得点を算出し、分析データとした (内的他者意識: $\alpha=0.78$, 外的他者意識: $\alpha=0.67$, 空想的他者意識: $\alpha=0.80$)。

4) フェイス項目

年齢と性別を回答させた。

3. 結果

3-1 個人差要因の男女差と国籍差

各個人差要因の男女と国籍による違いを検討するため、Scheffe による多重比較をおこなった (Table 1)。

その結果、私的自意識 (日本人男子 < タイ人男子: $p < .001$) (日本人男子・日本人女子 < タイ人女子: $p < .001$) (日本人女子 < タイ人男子: $p < .01$)、内的他者意識 (日本人男子 < タイ人女子: $p < .001$) (日本人男子 < タイ人男子: $p < .01$) で有意な主効果が認められた。

3-2 化粧行動を規定する個人差要因

日本人とタイ人の男女の化粧行動を規定する個人差要因をあきらかにするため、男女別・国籍別に化粧行動を目的変数とし、個人差要因の各因子を説明変数とする重回帰分析を Stepwise による変数選択法でおこなった。

その結果、『スキンケア』の場合 (Table 2)、タイ人男子とタイ人女子では公的自意識が正に、日本人男子では私的自意識と外的他者意識が正に、

Table 1 個人差要因の平均値と標準偏差

	タイ人男子		タイ人女子		日本人男子		日本人女子		F値	有意水準
	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD		
公的自意識	3.43	0.77	3.42	0.67	3.31	0.61	3.49	0.83	0.98	
私的自意識	3.98	0.56	3.94	0.53	3.48	0.71	3.62	0.79	14.93	***
外的他者意識	3.55	0.76	3.48	0.77	3.26	0.89	3.57	0.91	2.47	
内的他者意識	3.91	0.73	3.86	0.80	3.45	0.73	3.63	0.77	7.20	***
空想的他者意識	3.04	0.78	2.80	0.82	3.02	0.89	3.04	1.01	2.85	

*** $p < .001$

Table 2 『スキンケア』を規定する個人差要因

	タイ人男子		タイ人女子		日本人男子		日本人女子	
	β		β		β		β	
公的自意識	0.41	*	0.25	***				
私的自意識					0.32	*		
外的他者意識					0.28	*		
内的他者意識							0.28	*
空想的他者意識								
決定係数	0.15	*	0.06	***	0.19	***	0.07	*

*** $p < .001$ 、* $p < .05$

Table 3 『メイクアップ』を規定する個人差要因

	タイ人男子		タイ人女子		日本人男子		日本人女子	
	β		β		β		β	
公的自意識	0.36	*	0.32	***				
私的自意識								
外的他者意識								
内的他者意識							0.27	*
空想的他者意識					0.32	*		
決定係数	0.11	*	0.10	***	0.09	*	0.06	*

*** $p < .001$ 、* $p < .05$

Table 4 『クレンジング』を規定する個人差要因

	タイ人男子		タイ人女子		日本人男子		日本人女子	
	β		β		β		β	
公的自意識	0.42	**	0.19	*				
私的自意識								
外的他者意識								
内的他者意識								
空想的他者意識					0.34	*		
決定係数	0.16	**	0.03	*	0.10	*		

** $p < .01$ 、* $p < .05$

Table 5 『フレグランス』を規定する個人差要因

	タイ人男子		タイ人女子		日本人男子		日本人女子	
	β		β		β		β	
公的自意識			0.30	***				
私的自意識					0.28	*		
外的他者意識								
内的他者意識								
空想的他者意識	0.27	*			0.32	*		
決定係数	0.06	*	0.09	***	0.21	***		

*** $p < .001$ 、* $p < .05$

日本人女子では内的他者意識が正に有意に選択された。『メイクアップ』の場合 (Table 3), タイ人男子とタイ人女子では公的自意識が正に, 日本人男子では空想的他者意識が正に, 日本人女子では内的他者意識が正に有意に選択された。『クレンジング』の場合 (Table 4), タイ人男子とタイ人女子では公的自意識が正に, 日本人男子は空想的他者意識が正に有意に選択された。日本人女子では, 有意に選択された個人差要因はなかった。『フレグランス』の場合 (Table 5), タイ人女子では公的自意識が正に, 日本人男子では私的自意識と空想的他者意識が正に有意に選択された。タイ人男子と日本人女子では, 有意に選択された個人差要因はなかった。

4. 考 察

4-1 個人差要因の差

自意識や他者意識の男女差や国籍差を検討したところ, 公的自意識, 外的他者意識, 空想的他者意識については, 男女や国籍に関係なく同程度の高さであることがわかった。しかしながら, 私的自意識については日本人よりもタイ人の方が男女を問わず意識する程度が高く, 内的他者意識ではタイ人男女は日本人男子よりも意識をする程度が高かった。私的自意識と内的他者意識で, 日本人とタイ人で有意な差が認められた理由については不明である。今後, 詳細な知見の吟味が必要である。

4-2 化粧行動を規定する個人差要因

化粧行動を規定する個人差要因について検討をおこなったところ, タイ人男子では, 自分の外見や他者に対する行動など外からみえる自己の側面に対する注意を向ける意識が高い者ほど『スキンケア』『メイクアップ』『クレンジング』をおこなっていることがわかった。また, タイ人女子も, 自分の外見や他者に対する行動など外からみえる自己の側面に対する注意を向ける意識が高い者ほど『スキンケア』『メイクアップ』『クレンジング』『フレグランス』をおこなっていることがわかった。化粧とは, ひとの身体を美化し, 魅力を増し, 容顔を変える行動であるため, 自己の外見に関する意識が影響したと推測される。しかしながら, タイ人男子では, 他者について考え, 空想をめぐらせ, それを追いかける意識が高い者ほど『フレグランス』をおこなっていることがわかった。『フレグランス』は香りに関する化粧行動であり, 『メ

イクアップ』のように色彩的で視覚的な化粧とは異なり, 目に見えない空間的な広がりをもつ嗅覚的な化粧である。そのため, 現前しない他者への意識が『フレグランス』に影響したと推測される。日本人男子では, 自分の内面や気分など外からみえない自分の側面に注意を向ける意識と, 他者の化粧や服装などの外見にあらわれた特徴への注意や関心の意識が高い者ほど『スキンケア』をおこなっていることがわかった。「唇の保湿」「顔の保湿」などの項目が高く寄与する『スキンケア』は, 肌の手入れという自己に向かう化粧であるため, 自分の内面や気分など外からみえない自分の側面に注意を向ける意識が日本人男子で影響したと推測される。また, 化粧はひとの身体を美化し, 魅力を増し, 容顔を変える行動であるため, 他者がどのような化粧をしているのかという他者の外見への意識の高さが影響したと推測される。さらに, 日本人男子では他者について考え, 空想をめぐらせ, それを追いかける意識が高い者ほど『メイクアップ』『クレンジング』をおこなっていた。これは, これから会うであろう他者について考え, その他者が自己をどのようにみるであろうかと空想をめぐらせることが, 『メイクアップ』『クレンジング』に影響したと推測される。加えて, 日本人男子では自分の内面や気分など外からみえない自分の側面に注意を向ける意識や他者について考え, 空想をめぐらせ, それを追いかける意識が高い者ほど『フレグランス』をおこなうことがわかった。空間的な広がりをもつ嗅覚的な化粧である『フレグランス』は目にみえない。そのため, 自己の外見ではなく内面や現前しない他者に対する意識の高さが『フレグランス』に影響したと推測される。日本人女子では, 他者の気持ちや感情などの内面情報を敏感にキャッチし理解しようとする意識や関心が高い者ほど『スキンケア』『メイクアップ』をおこなっていることがわかった。平松¹⁾や平松・牛田¹¹⁾によれば, 日本人女子は, 多くの化粧行動をおこなっている。すなわち, 化粧をすることは一般的であり, 平松・牛田¹¹⁾によれば化粧をすることの周囲からの期待は高い。そのため, 化粧について, 他者へのみせ方よりも他者からのみられ方を意識していると考えられる。そのため, 他者の気持ちや感情などの内面情報を敏感にキャッチし理解しようとする意識や関心の高さが『スキンケア』『メイクアップ』に影響したと推測される。

5. まとめと今後の課題

本研究では、日本人とタイ人の男女の化粧行動を規定する個人差要因について検討をおこなった。その結果を要約すると、おおむねタイ人男女の化粧行動は公的自意識が規定し、部分的ではあるものの空想的他者意識がタイ人男子の化粧行動を規定していた。また、日本人男子の化粧行動は私的自意識、外的他者意識、空想的他者意識が部分ではあるが規定し、日本人女子の化粧行動は内的他者意識が規定していた。すなわち、日本人とタイ人における、おこなう化粧行動の程度の違いには、化粧行動を規定する個人差要因の違いが関係していることがわかった。

今後の課題として、知見の一般性を吟味すること、個人差要因以外の要因がいかに関係しているか検討することの必要がある。

参考文献

- 1) 平松隆円;化粧基準と化粧行動の日タイ比較, 織消誌, 58 (3) : 22-31 (2017)
- 2) Thomas Cash & Diane Walker Cash; Women's use of cosmetics: Psychosocial correlates and consequences, *International Journal of Cosmetic Science*, 4: 1-14 (1982)
- 3) Lynn Miller & Cathryn Cox; For Appearances' Sake Public Self-Consciousness and Makeup Use, *Personality and Social Psychology Bulletin*, 8: 748-751 (1982)
- 4) 松井豊;パッケージ性格の心理 5—自分の性格と他人の性格, ブレーン出版, 55-66 (1986)
- 5) 平松隆円・牛田聡子;化粧に関する研究 (第2報) —大学生の化粧関心・化粧行動・異性への化粧期待と個人差要因—, 織消誌, 44 (11) : 69-75 (2003)
- 6) 平松隆円;大学生の化粧行動の実態解明と社会的スキル・性役割・自意識・他者意識との関連性, 佛教大学教育学部学会紀要, 4: 165-179 (2005)
- 7) 平松隆円;化粧にみる日本文化-だれのためによそおうのか, 水曜社, (2009)
- 8) 厚生労働省;医薬品, 医療機器等の品質, 有効性及び安全性の確保等に関する法律, 改正平成 27 年 6 月 26 日法律 50 号, (2015)
- 9) 菅原健介;自意識尺度日本語版作成の試み, 心理学研究, 55 : 184-188 (1984)
- 10) 辻平治郎;自己意識と他者意識, 北大路書房, (1993)
- 11) 平松隆円・牛田聡子;化粧に関する研究 (第1報) —大学生の化粧関心・化粧行動・異性への化粧期待の構造解明—, 織消誌, 44 (11) : 58-68 (2003)